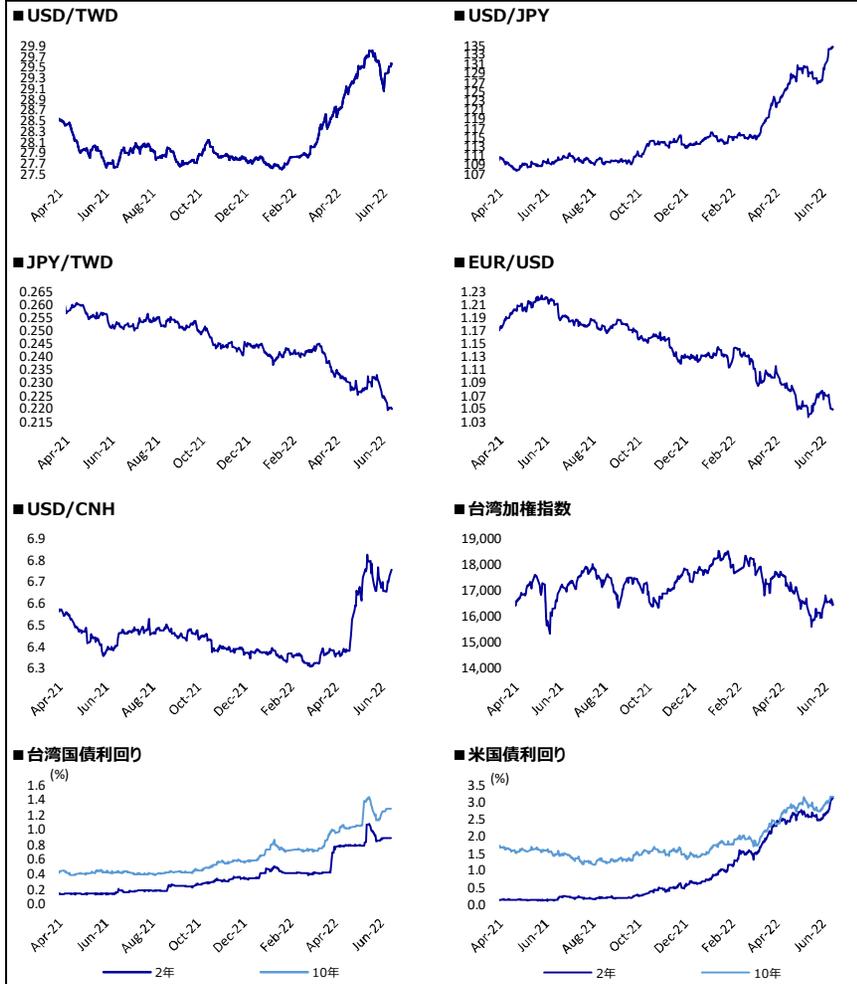


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/6は29.430でオープン後、一時29.370まで下落するも動意に乏しく29.42付近で推移。6/7は前日の米金利の急上昇を受けてドルが強含んだことや、台湾株が下落し外国人投資家の台湾ドル売りが入ったことから、29.5台に乗せたが、輸出企業のドル売りも散見され上値は重かった。6/8は週末に米CPIの発表も控えていることもあり、積極的な動きはみられず、29.5を挟んでレンジで推移。6/9は外国人投資家の海外送金が拡大したことから29.60付近で推移したが、輸出企業のドル売りが入ると29.52付近まで戻された。6/10は軍備購入のためのドル買いや前日の米株安を受けて台湾株安となると台湾ドルが売られたことから、一時29.610まで上昇。しかし、輸出企業のドル売りが入り上値は重く、最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の29.584で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は414.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は大幅上昇。週初6/6は130.83でオープン後、特段材料がなかったが米長期金利の上昇を受けてドル円も上昇。米10年債の利回りが3%台にのせるとドル円は131円台に入り、年初来高値の131.35も突破。その後もドルは買われ一時132円台をつけた。6/7は前日の流れを引き継ぎ132円台後半まで上昇したが、RBAが予想外の50bpの利上げを発表すると一時133.00をタッチしたが、米金利が低下すると132円台半ばで推移。6/8は円安の流れから133円台前半に上昇したが、黒田日銀総裁から金融緩和継続の必要性について言及したことから円売りが加速し、ドル円は134円台半ばまで買われた。6/9も円売りの流れが継続し、一時134.56まで上昇したが、実需勢の円買い等からじりじりと下落すると一時133円台前半まで戻した。しかし、ECB理事会後にユーロが売られる展開にドル円は134円台に戻したが、6/10は日銀・財務省・金融庁の三者会合開催との報道を受け、133円台半ばまで下落。その後134円台に戻したが、米5月CPIが予想を上回るとドル円は乱高下したものの、米金利が次第に上昇するとドル円も上昇し、134円台半ばまで上昇。最終的に先週比2.7%ドル高円安の134.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.400-29.800
先週のCPIの結果を受けて米金利が上昇しており、台湾ドルが売られやすい時合いとなっているが、今週はFOMCだけでなく、台湾中銀の金融政策決定会合を控えている。台湾中銀が米国に追随する形で利上げペースを速めていくかが注目されているが、年初来の急激な台湾ドル安へのコメントがあるかも確認したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：133.00-137.00
今週はFOMCを控えているが、5月の50bpの利上げは織り込まれており、今後の利上げペースについて焦点となっている。先週のCPIの結果を受けて、物価上昇はまだビークアウトしていないとの認識が広まっており、9月以降の50bp利上げも織り込まれる中、利上げペースを維持するのであれば、ドル円は上昇を続けるであろう。

今週の予定

6/13 (MON)	
6/14 (TUE)	米5月PPI
6/15 (WED)	米5月小売売上高、FOMC
6/16 (THU)	台湾中銀金融政策決定会合、米5月住宅着工・許可件数
6/17 (FRI)	日銀金融政策決定会合、米5月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。